

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B1)

(11)特許番号
特許第7627074号
(P7627074)

(45)発行日 令和7年2月5日(2025.2.5)

(24)登録日 令和7年1月28日(2025.1.28)

(51)国際特許分類

F I

A 4 7 C 27/00 (2006.01)

A 4 7 C 27/00

L

請求項の数 2 (全7頁)

(21)出願番号	特願2024-164934(P2024-164934)	(73)特許権者	524354236
(22)出願日	令和6年9月24日(2024.9.24)		村田 広志
審査請求日	令和6年9月24日(2024.9.24)		長崎県長崎市川平町1207-5 ほっ
早期審査対象出願			とメゾン川平1階
		(74)代理人	100172225
			弁理士 高松 宏行
		(72)発明者	村田 広志
			長崎県長崎市川平町1207-5 ほっ
			とメゾン川平1階
		審査官	望月 寛

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 クッション

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

平面視して弧状に成形され、使用者が着座する際の座面を有するクッション本体と、補助クッションが取り付けられた2つのベルト部材と、を備え、前記クッション本体の中心線を対称軸として2つの前記ベルト部材を前記クッション本体に巻き付けると、2つの前記補助クッションは前記クッション本体に対して、平面視して着座した使用者の前方側に向かうにつれ2つの前記補助クッションの間隔が狭まる「逆八の字」状に装着される、クッション。

【請求項2】

前記クッション本体に装着された2つの補助クッションは、着座した状態における使用者の座骨に対応する位置にある、請求項1に記載のクッション。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、着座して使用するクッションに関する。

【背景技術】

【0002】

出産後の女性を対象とした様々なクッションが提案されている（例えば特許文献1）。特許文献1には、授乳時には腰部の周囲に装着して使用され、背面側に開口部が設けられたドーナツ型の授乳用クッションが開示されている。この授乳用クッションによれば、授

20

乳時に乳児の姿勢を安定した状態に保ちながら、授乳する女性への負担を軽減することができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特許第6061168号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、女性は一般的に妊娠期、産褥期（妊娠や出産によって生じた母体の変化が妊娠前の状態に戻るまでの期間）に身体の不調、特に痛みを感じる人が多いとされている。その原因のひとつとして、「骨盤後傾位」が理学療法分野、産婦人科分野において周知の事実として挙げられている。

【0005】

骨盤後傾位とは、骨盤が後方に傾いた状態のことを指す。骨盤は通常、やや前方に傾いているのが自然な姿勢とされているが、骨盤後傾位はその逆である後方に傾いているため、体全体の姿勢に悪影響を及ぼすといわれている。この骨盤後傾位を引き起こす要因のひとつとして、授乳姿勢があるとされている。しかしながら、特許文献1を含む従来技術は乳児の姿勢の安定化を目的とした腰回り装着型のクッションであるため、授乳姿勢の観点を含め、妊娠期、産褥期における女性側の身体の不調を緩和するようなクッションが望まれていた。

【0006】

そこで本発明は、使用者の身体の不調を緩和することができるクッションを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本開示のクッションは、平面視して弧状に成形され、使用者が着座する際の座面を有するクッション本体と、補助クッションが取り付けられた2つのベルト部材と、を備え、前記クッション本体の中心線を対称軸として2つの前記ベルト部材を前記クッション本体に巻き付けると、2つの前記補助クッションは前記クッション本体に対して、平面視して着座した使用者の前方側に向かうにつれ2つの前記補助クッションの間隔が狭まる「逆ハの字」状に装着される。

【発明の効果】

【0008】

本発明によれば、使用者の身体の不調を緩和することができる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】本発明の一実施の形態におけるクッションの（a）斜視図（b）平面図である。

【図2】本発明の一実施の形態におけるクッションの分解斜視図である。

【図3】本発明の一実施の形態におけるクッションの使用状態を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0010】

図1、2を参照して、本実施の形態におけるクッションを説明する。クッション1はクッション本体2と、2つの補助クッション3A、3Bと、2つの補助クッション3A、3Bの夫々が取り付けられた2つのベルト部材4A、4Bを含んで構成される。

【0011】

クッション本体2は所定の厚み（図2に示す符号s1）を有し、その内部には綿などの天然素材、ポリウレタンなどの合成樹脂、ゴムなどの弾性材料などが充填されている。クッション本体2の上面20は、使用者P（図3）が着座する際の座面となっている。クッション1の主な使用者Pが産後の女性であることに着目すると、着座時にクッション本体

10

20

30

40

50

2 があまり沈まない反発力の強い高反発ウレタンフォームが望ましい。

【 0 0 1 2 】

クッション本体 2 の厚み s_1 (図 2) としては、7 c m 程度が好ましい。その理由について説明すると、授乳は床上、椅子、ソファ、ベッド等、様々な場所で行われる。特に産後 3 ヶ月程度の期間は床上で授乳する機会が多く、当該期間は出産後の女性の体幹筋が弱くなっている事も相まって身体の不調が表れやすい傾向がある。床上での授乳は図 3 に示す「あぐら姿勢」をとることが多いが、仮にフラットな床面で「あぐら姿勢」をとると、膝の位置より座骨の位置が低い位置になるので、股関節が深く曲がり骨盤が後ろに倒れ(後傾)、腰が丸まってしまう。それに伴って背骨が丸まり、頭が前方頭位(肩より頭が前に位置する)となることで身体の不調が表れる。

10

【 0 0 1 3 】

そこで、クッション本体 2 の厚み s_1 を 7 c m 程度にすることで、使用者 P が着座した状態において、膝と座骨の高低差がほぼ無くなるとともに、股関節が深く曲がるのが抑制されるので骨盤が垂直方向に起き上がり姿勢を保つことが可能となる。そして、骨盤が起き上がることで座骨により荷重(骨支持)されることとなり、骨盤底筋群や腹部筋の活動が働きやすくなるという効果が期待できる。

【 0 0 1 4 】

クッション本体 2 は、異なる硬度の素材を上下方向に積層した構造でもよい。例えば、クッション本体 2 を三層構造とする場合、上位層と下位層の間に、これらよりも硬度が小さな柔らかいスポンジを中間層として挟み込むことで、使用者 P が重心移動を行い易くなる効果が期待できる。

20

【 0 0 1 5 】

図 1 (b) に示すように、クッション本体 2 は平面視して、円周の一部を切り取った「弧」状に成形されている。より詳細には、クッション本体 2 は、平面視して緩やかに屈曲した屈曲部 2 A と、屈曲部 2 A の両端の夫々から延出して連続的に設けられた第 1 の延出部 2 B、第 2 の延出部 2 C と、を含んで構成される。屈曲部 2 A は使用者 P の臀部、第 1 の延出部 2 B は使用者 P の左太もも、第 2 の延出部 2 C は使用者 P の右太ももを支持する(図 3)。クッション本体 2 は、使用者 P が着座した状態において、使用者 P の前方側に平面視して凹状の窪み 5 を有する。窪み 5 を有することで、使用者 P が「あぐら姿勢」をとっても両足が窪み 5 の範囲に位置してクッション 1 に干渉しないようになっている。

30

【 0 0 1 6 】

次に補助クッション 3 A , 3 B について説明する。図 1 , 2 において、補助クッション 3 A , 3 B は一方向に伸び所定の厚み s_2 (図 2) を有する。補助クッション 3 A , 3 B の内部に充填される素材はクッション本体 2 と同様の素材を選択することができるが、クッション本体 2 よりも硬度が小さい、すなわちクッション本体 2 よりも柔らかいものが好ましい。

【 0 0 1 7 】

図 1 (b) に示すように、補助クッション 3 A , 3 B の長手方向の長さ寸法 t は、クッション本体 2 の幅方向(長さ寸法 t に沿った方向)の長さ寸法と略同一、若しくは少なくとも長さ寸法 t 以下に設定されている。すなわち、補助クッション 3 A , 3 B は、平面視してクッション本体 2 の上面 2 0 に収まるサイズとなっている。なお、補助クッション 3 A , 3 B の長さ寸法 t はクッション本体 2 の幅方向の長さ寸法より大きくてもよい。

40

【 0 0 1 8 】

補助クッション 3 A , 3 B の厚み s_2 は、クッション本体 2 の厚み s_1 よりも薄く設定されている。なお、補助クッション 3 A , 3 B の厚み s_2 はクッション本体 2 厚み s_1 の $1/3$ 以下であることが好ましいが、必ずしも厚みをそのように設定しなくてもよい。このように、補助クッション 3 A , 3 B はクッション本体 2 よりも硬度が小さく、厚みが薄い。

【 0 0 1 9 】

ベルト部材 4 A , 4 B は、補助クッション 3 A , 3 B をクッション本体 2 に対して固定

50

するために用いられる。図 2 において、ベルト部材 4 A , 4 B の表面の一端側には係合手段としての面ファスナ (雄) 6 が設けられ、裏面の他端側には同じく係合手段としての面ファスナ (雌) 7 が設けられている。補助クッション 3 A , 3 B は、ベルト部材 4 A , 4 B の略中央の位置に裁縫などによって取り付けられている。

【 0 0 2 0 】

クッション本体 2 の幅方向 (図 1 (b) に示す矢印 a) からベルト 4 a , 4 B を巻回して面ファスナ (雄) 6 と面ファスナ (雌) 7 を係合させることで、補助クッション 3 A , 3 B はクッション本体 2 の上面 2 0 側に固定される (図 1)。

【 0 0 2 1 】

クッション本体 2 は上述のとおり、平面視して「弧」状に成形されている。したがって、補助クッション 3 A , 3 B をクッション本体 2 の中心線 C (図 1 (b) を軸としてクッション本体 2 に対象に装着した場合、補助クッション 3 A , 3 B は着座した使用者 P の前方側に向かうにつれ両者の間隔が狭まる「逆ハの字」状に配置される。すなわち、補助クッション 3 A , 3 B は、使用者 P の骨盤の一部である、臀部の下にある 2 つ座骨 (座骨結節) に対応する位置に配置されることとなる。

10

【 0 0 2 2 】

なお、座骨の位置は使用者 P の個体差によって異なるので、補助クッション 3 A , 3 B をクッション本体 2 に対して任意の位置にベルト部材 4 A , 4 B を介して装着することで、補助クッション 3 A , 3 B と座骨の位置合わせを行うことができる。ベルト部材 4 A , 4 B は、クッション本体 2 に対して補助クッション 3 A , 3 B を固定する位置を調整する調整手段としても機能する。

20

【 0 0 2 3 】

以上説明したように、本実施の形態におけるクッション 1 は、使用者 P が着座する際の座面を有するクッション本体 2 と、クッション本体 2 に着脱自在な 2 つの補助クッション 3 A , 3 B と、を備える。また、2 つの補助クッション 3 A , 3 B は、平面視して着座した使用者 P の前方側に向かうにつれ 2 つの補助クッション 3 A , 3 B の間隔が狭まる「逆ハの字」状となるようにクッション本体 2 の座面上に装着される。また、クッション本体 2 に装着された 2 つの補助クッション 3 A , 3 B は、着座した状態における使用者 P の座骨に対応する位置にある。

【 0 0 2 4 】

30

このように、着座した状態における使用者 P の座骨に対応する位置に補助クッション 3 A , 3 B を装着 (固定) することで、補助クッション 3 A , 3 B が座骨への感覚刺激となって座骨支持が容易になるとともに、腰部への負担が軽減される効果が期待できる。また、補助クッション 3 A , 3 B で座骨を下受けすることで感覚入力がされて骨盤周囲の筋肉が働くという効果が期待できる。総じて、骨盤後傾位を抑制して、特に妊娠期、産褥期における使用者 P である女性の身体の不調緩和することができる。

【 0 0 2 5 】

本発明のクッションは本実施の形態に限定されず、発明の趣旨を逸脱しない範囲で適宜に設計変更が可能である。例えば、クッション本体の上面に凹部を設け、この凹部に補助クッションを嵌め合わせるような構造でもよい。但し、座骨の位置は個人差があるので、本実施の形態のように、クッション本体に対して補助クッションを固定する位置を調整できるような構造の方が望ましい。また、係合手段としては面ファスナでなく、バックルを代わりに用いてもよい。さらに、クッションは広く一般の女性のみならず、男性が使用してもよい。

40

【産業上の利用可能性】

【 0 0 2 6 】

使用者の身体の不調を緩和することができるクッションを提供する。

【符号の説明】

【 0 0 2 7 】

1 クッション

50

2 クッション本体

3 A , 3 B 補助クッション

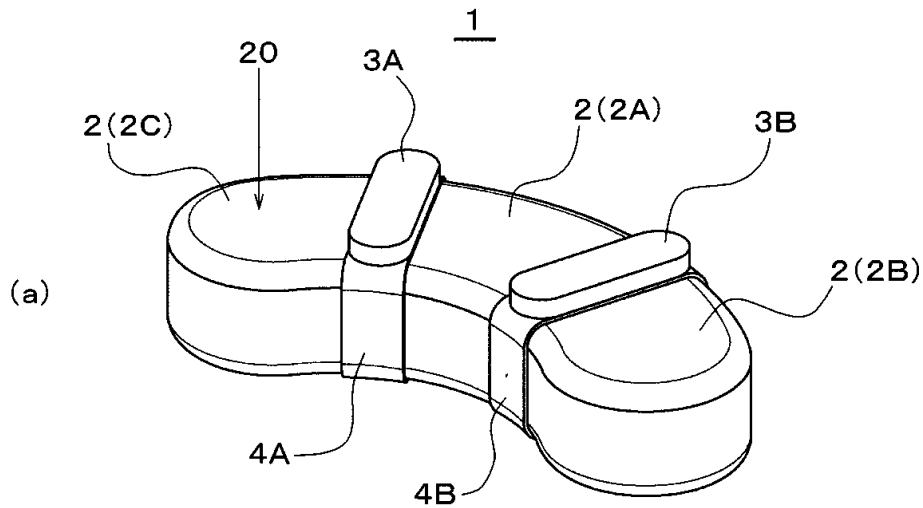
【要約】

【課題】使用者の身体の不調を緩和することができるクッションを提供する。

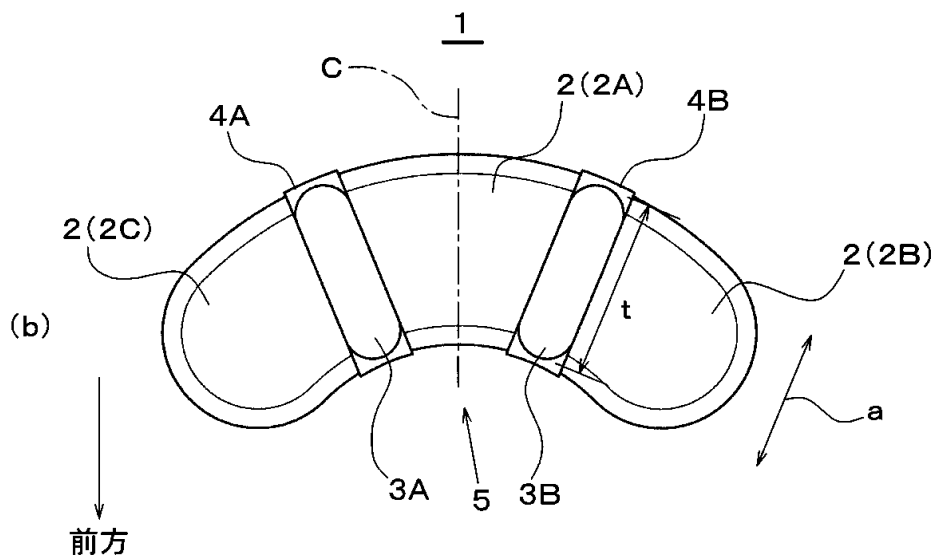
【解決手段】本開示のクッションは、使用者が着座する際の座面を有するクッション本体 2 と、クッション本体 2 に着脱自在な 2 つの補助クッション 3 A , 3 B と、を備え、2 つの補助クッション 3 A , 3 B は、平面視して着座した使用者の前方側に向かうにつれ 2 つの補助クッション 3 A , 3 B の間隔が狭まる「逆八の字」状となるようにクッション本体 2 の座面上に装着される。

【選択図】図 1

10



20



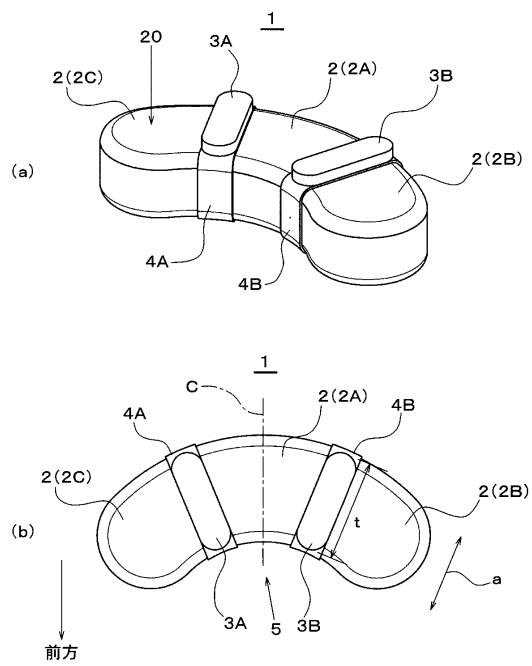
30

40

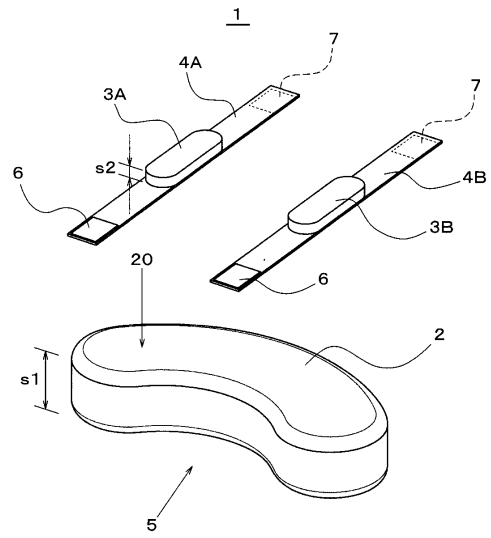
50

【図面】

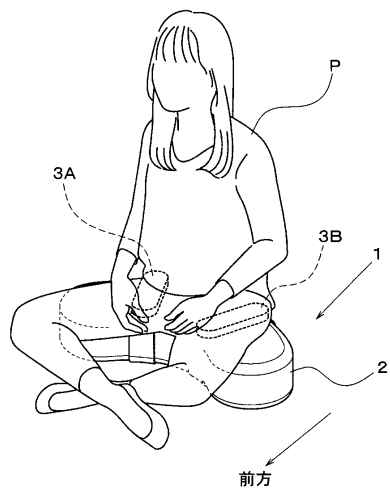
【図 1】



【図 2】



【図 3】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開 2 0 1 0 - 2 5 3 0 9 6 (J P , A)
米国特許出願公開第 2 0 1 5 / 0 3 5 9 6 9 0 (U S , A 1)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
- | | |
|---------|-----------|
| A 4 7 C | 2 7 / 0 0 |
| A 4 7 C | 9 / 0 0 |
| A 6 1 F | 5 / 0 1 |